

訪問先企業

株式会社武蔵屋

代表取締役社長 小林 総子 氏

1950年に「株式会社武蔵屋」として法人化し今年で74年を迎える。

埼玉県上尾工場、群馬県藤岡市のユニフォーム工場とリネン工場の3工場で法人向けユニフォームのクリーニングやレンタル、リネンサプライ、個人向けのクリーニングを手掛ける。

地域貢献活動や5S改善活動、太陽光発電システムの設置などサステナブルな社会実現への取り組みに力を入れ100年企業を目指している。



● 最敬礼のクリーニング屋さん

創業に至る経緯をお聞かせください。

小林社長 創業者である父の関根直幹は、1926年(大正15年)に刺繍職人の次男として東京都江東区で生まれた。父は家計を助けるため昼は町工場などで働きながら、夜間中学に通って勉強をしたそうだ。

太平洋戦争後はメッキ工場で働いていたが、義兄の勧めで1948年に東京都荒川区東尾久に「共盛舎クリーニング店」を開業した。当時は一般家庭がドライクリーニングを利用するような時代ではなかったので、毎日1軒1軒「奥さま御用はございませんか」と聞いて回ったそうだ。丁寧な仕上がりに加え、地面に頭がつきそうなく

らいに頭を下げる父の姿が「最敬礼のクリーニング屋さん」と評判になり、店は繁盛するようになったとのこと。

その後、父の友人から日本国有鉄道(現在のJRグループ、以下国鉄)の職員を紹介され、そのご縁がきっかけとなり、国鉄との取引が始まった。この国鉄との取引は、武蔵屋が町のクリーニング屋から法人向けのクリーニング、リネンサプライへと事業展開する大きなターニングポイントとなった。

1950年に、共盛舎クリーニング店は「株式会社武蔵屋」として新たなスタートを切ったが、JRグループとの取引は今日も続いている。今では同社の他、食品工場、飲食店、ホテル等法人向けのユニフォームやリネンも取り扱うようになっている。



最敬礼のクリーニング屋さん

● 工場の移転とビジネスモデルの転換

法人成りしてからの業容拡大の経緯をお聞かせください。

小林社長 1964年上尾市上尾下に大量にクリーニングができる上尾工場を建設した。このタイミングで、注文を取りに行き洗濯物を預かる御用聞きスタイルからスーパーなどの店先で委託業者に洗濯物を預かってもらい、当社が工場ですべて仕上げ取次店に戻す形態へとビジネスモデルを変更した。

不慣れな土地であったため、当初は取次店を見つけるのに苦労したそうだ。父自ら足を運び、取次手数料を支払うことを約束するなど丁寧に説明した結果、取次店の1号店を桶川駅前

店を増やし、最盛期には100店舗もの取次店があった。しかし、時代の流れと共に直営店中心の店舗展開へと移行し、今では取次店は5店舗となり17の直営店を運営している。

1989年に群馬県佐波郡玉村町にリネン全般を扱う工場として高崎工場を新設した。事業が大きく拡大したこともあり、2010年には食品工場向けの白衣のクリーニング専門工場として群馬県藤岡市に藤岡ユニフォーム工場を新設した。藤岡市は高崎工場からも近く、従業員の負担を少しでも軽減できるようにと選んだ土地だ。

藤岡ユニフォーム工場では、異物混入を防ぐために、洗い場のある一般区域と仕上げをする清潔区域とを分けている。工場に入室する際に必ず通る前室においては、入念な衛生管理を行い、異物が混入しないよう細心の注意を払っている。一般区域では、お預かりした衣類のポケットなどに異物がないかを徹底的に確認してからユニフォームを洗浄する。専用仕上げ機であるトンネルフィニッシャーでユニフォームをハンガーにかけたまま四方から温風を当てて乾かし、衣類のホコリを取り除き、しわのないように仕上げる。

2018年には高崎工場に代わり、リネンを専門に扱う藤岡リネン工場を新設した。ここでは、主にホテルの寝具類、温浴施設やスポーツクラブのタオルなどのクリーニングを行っている。連続洗濯機、シーツの自動投入機、両面カメラを導入したことで、生産性と品質の両方で効果が得られている。

藤岡ユニフォーム工場と藤岡リネン工場を稼働させたことで、より専門性の高いクリーニングが提供できるようになっている。両工場は安心してクリーニングを任せていただけるよう、お客さまに見学してもらっている。

需要が減少してきているもののドライクリーニングは武蔵屋の原点であり、今後もお客さまに

さすてなぶる(=サステナブル):「持続可能性」という意味。
サステナブルという言葉には、単に維持・持続できるということだけでなく、次世代に向けた発展を追求し続けるという意味合いが含まれている。
本項では、あしぎん総合研究所の会員企業の中から、毎月1社訪問インタビュー

させていただき、その企業の特徴や強み、今後の課題等を紹介させていただくコーナーである。

満足していただけるよう、最高の仕上がりを提供し続けていくつもりだ。



藤岡リネン工場 作業風景



藤岡工場 洗濯機・乾燥機



ユニフォーム仕上げ機 トンネルフィニッシャー

● コロナ禍を乗り越えて

会社としてご苦勞されたことを教えてください。

小林社長 世界中を襲った新型コロナウイルス感染症(以下新型コロナ)のまん延による緊急事態宣言で外出自粛が呼びかけられ、当社のお客さまの多くが休業を余儀なくされた。当社でも夜遅くまで忙しく動いていた工場が週3日半日稼働

するのがやっとのような状態になった。売上が減少し、先が見えない不安の中で人員を削減する企業もあったが、私はこれまで苦勞をともにした社員を簡単に減らすという考えにはならなかった。新型コロナが落ち着き、お客さまの業務が再開したときを考え、雇用調整助成金を使い、解雇することなく耐えしのいだ。

工場内の整理整頓、生産性向上を目的とした5S^{※1}活動は以前から取り組んでいたが、コロナ禍で空いた時間を利用し、更なる充実を図ることになった。5Sの先進企業を訪問し、実際の活動を目の当たりにすることで社員の意識が徐々に変わり、受け身ではなく、自ら進んでやる5Sになっていった。

当社は『極める力』の著者である藤井裕幸氏、足利5S学校の木村温彦氏に師事しており、今では現場の社員だけでなく、経営幹部も5Sインストラクター養成講座を受講するなど、5Sが全社的な取り組みになっている。

5Sは単なる環境美化や整理整頓につながるだけでなく、その活動を通じてクリーニングの品質確保など企業の進むべき道を示唆してくれる。

● お客さまや社員への感謝

経営を行う上で大切にしていることを教えてください。

小林社長 当社が創業より守り続けている原点は、「お客さまに感謝し、お客さまのお役に立つ。」ことである。お客さまが当社を選んでくださるから、75年という長い年月続けてこられている。

新型コロナが5類に移行し、お客さまからの依頼とともに、工場にも活気が戻ってきた。社員の元気な声、活発な動き、様々なクリーニング機械の稼働音が鳴り響いている。これが当社本来の活気ある現場の姿である。お客さまが元気に活動することで、当社もまたそのエネルギーをいただき、活気ある現場となっているのだ。株式会社ハイデイ日高の神田会長が「我が社にとってユニフォーム



社員褒賞パーティー

はなくてはならないもの。それを綺麗にしてくれる武蔵屋さんは我が社にとってインフラなのだよ。」と、とても嬉しいことをおっしゃってくださいました。

また、当社では「社員は宝である。社員と家族を幸福にする。」も掲げている。当社にはパート(ひまわり社員)を含めた社員約450名が勤務してくれている。年末年始やGWはホテルや旅館などが繁忙期であるため、当然のようにクリーニングの依頼が多くなる。家族が休みのときには、社員も休みたいであろう。しかし、皆嫌な顔一つせず業務にあたってくれている。家族の理解があったことだ。当社は社員や社員の家族に支えられて成り立っている。

今日までやってこられているのはお客さまと社員のおかげであり、心から感謝している。これからも、感謝のこころと報恩のこころを忘れずに歩み続けていくつもりだ。

● サステナブルな社会の実現のために

現在取り組んでいることを教えてください。

小林社長 私が中学生の頃、知的障がいの

方々が自宅に寝泊まりし、上尾工場に通って仕事をしていた。そのような環境で育ったこともあり、私は大学の社会福祉学科に進学した。大学卒業後は障がいのある子どもたちが通う学校で教員としても働いた。その後、浦和市(現在のさいたま市)にある社会福祉事業団にも勤務した。教員時代に、保護者の方からは障がいのある子どもが学校卒業後働く場がないということをよく聞かされていた。当社の工場では、以前から障がいのある方々に働いてもらっている。障害のある方々に社会とのつながりを意識してもらえ、そうした方々の就労支援にもつながっており、今後も働いてもらいたいと思っている。

また、子供服のリサイクルにも力をいれている。全国ドライクリーニングの専門誌を発行しているゼンドラ株式会社の取組みに感銘を受け、当社も一緒に取り組んでいる。当社の17店舗ある直営店の店頭で籠を置き、サイズアウトで不要となった子供服を回収しクリーニングする。今後、ゼンドラ株式会社と一緒に、きれいになった子供服の無料譲渡会をホームセンターなどの店頭を借りて行っていきたい。

※1： 職場環境の改善や維持のために用いられるスローガンで、おもに製造業やサービス業で利用されている。5Sは、各職場において徹底すべき5つの項目、「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「躰(しつけ)」によって定義されている。

クリーニング工場では、電気や天然ガスを多く使用する。藤岡ユニフォーム工場、藤岡リネン工場に太陽光発電システムを導入し、今年1月から稼働を始めた。工場で使用する電力の約2割は太陽光発電で賄える。当社が現在使用している天然ガスの代わりに、木材チップや当社の工場で排出される蒸気を熱源として使用できないかの検討も進めている。

こうした当社でもできる次世代に向けた取組



小林社長(左手前) 小林取締役 経理部 部長(左奥)
足利銀行 大宮支店 長島支店長(右中央) 高野係長(右手前)
聞き手:あしぎん総合研究所 上席研究員 松田(右奥)

みを一つ一つ丁寧に対応していくことで、サステナブルな社会の実現に貢献していきたい。

以上

**着られなくなった子ども服は
当店にお持ち込みください。**

無料回収 → 譲渡会

子育て世帯の方々へ無料でお譲りしております。

みなさまのご厚意を輪でつなぐ。
当店は子育て支援を積極的に取り組み、
人々の温かい和を大切にしております。

子ども服回収ポスター

会社概要

株式会社武蔵屋

代表取締役 小林 総子
 本 社 / 埼玉県さいたま市見沼区東大宮4-29-1
 電 話 / 048-663-7037
 創 業 / 1950年
 資 本 金 / 5,000万円
 従 業 員 / 450名
 事業内容 / 業務用ユニフォームクリーニング&リネン
 サプライ、法人向け一般クリーニング・
 ドライクリーニング、個人向けクリーニング、
 業務用各種商材販売・卸売
 紙ナフキン・ハンドタオル等販売・卸売、
 ユニフォーム・タオル等販売・卸売



足利銀行大宮支店 長島支店長 より一言

この度はお忙しい中、取材にご協力いただき、ありがとうございました。
 今回の取材を通じ、貴社の創業から現在のビジネスモデルへの転換を通じた成長の歴史を改めて何うことができました。
 創業者である小林社長のお父様は、お客さまから「最敬礼のクリーニング屋さん」と呼ばれるほど、お客様に対する感謝の気持ちを持って仕事に取り組みされたとのこと。
 「お客さまに感謝し、お客さまを大切にする。」という経営信条は、創業者の理念が、現在も貴社の経営の根底に脈々と息づいている証左でもあり、深い感銘を受けました。
 また、知的障がいのある方々を早くから受け入れて従業員としてきたことや、子供服のリサイクル活動、クリーンエネルギーの導入など、広く社会貢献活動にも取り組んでいることも、貴社が地域からの信頼を得ている大きな理由の一つであることが分かりました。
 弊行といたしましても、永年の強い信頼関係のもと、貴社の100年企業に向けた持続的な成長をサポートさせていただきたいと考えております。
 末筆ながら、貴社の益々のご繁栄と従業員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



取材後記

サステナブルな社会の実現のために、社会福祉法人様との協業や工場の省エネ設備の導入等に尽力をされる貴社の活動に感銘を受けました。また子供服のリサイクルにも力を入れ、無料譲渡会を開催することは子育て世帯の支援となり、貴社が社会全体のインフラとしてなくてはならない存在であり続けると思います。(小館)



藤岡リネン工場 太陽光発電システム